

症例報告

経皮内視鏡的胃瘻造設術後に結腸皮膚瘻を認めた1例

福田 康文、金村 博成、藤本 篤

尚仁会 平島病院外科

[和文要旨]

結腸皮膚瘻はPEGにおいて稀な合併症である。症例は、48歳女性。重度精神発達障害、髄膜腫の再発により嚥下困難を認め、胃瘻造設施行。造設後3ヵ月後PEGより便汁の排出を認めた。上部消化管内視鏡で胃内にPEGを認めず、PEGからの造影で横行結腸内にバンパーが逸脱していた。大腸内視鏡にてバンパーを取り除いた。御家族の希望もあり、再度PEGは造設しなかった。結腸皮膚瘻は稀な合併症であるが、PEGを施行する際は、術前の評価と合併症を十分に念頭に置くことが重要と思われた。